

デーヴォ ガイド



2025.5.12-18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



22:1 イスラエルの子らは旅を続け、ヨルダンのエリコの対岸にあるモアブの草原に宿営した。

22:2 ツィポルの子バラクは、イスラエルがアモリ人に行ったすべてのことを見た。

22:3 モアブは、イスラエルの民の数が多かったので非常におびえた。それでモアブはイスラエル人に恐怖を抱いた。

22:4 モアブはミディアン長老たちに言った。「今、この集会は、牛が野の青草をなめ尽くすように、われわれの周りのすべてのものをなめ尽くそうとしている。」ツィポルの子バラクは当時、モアブの王であったが、

22:5 同族の国にある、あの大河のほとりのペトルにいるベオルの子バラムを招こうと、使者たちを遣わして言った。「見なさい。一つの民がエジプトから出て来た。今や、彼らは地の面をおおい、私の目の前にいる。」

22:6 今来て、私のためにこの民をのろってもらいたい。この民は私より強い。そうしてくれれば、おそらく私は彼らを討って、この地から追い出すことができるだろう。あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれることを、私はよく知っている。」

22:7 モアブの長老たちとミディアンの長老たちは、占い料を手にしてバラムのところにいき、バラクのことばを告げた。

22:8 バラムは彼らに言った。「今夜はここに泊まりなさい。【主】が私に告げられるとおりに、あなたがたに返答しましょう。」モアブの長老たちはバラムのもとにとどまった。

22:9 神はバラムのところに来て言われた。「あなたと一緒にいるこの者たちは何者

か。」

22:10 バラムは神に言った。「モアブの王ツィポルの子バラクが、私のところに使いをよこし、

22:11 『今ここに、エジプトから出て来た民がいて、地の面をおおっている。さあ来て、私のためにこの民に呪いをかけてくれ。そうしたら、おそらく私は彼らと戦って、追い出すことができるだろう』と申しました。」

22:12 神はバラムに言われた。「あなたは彼らと一緒に行ってはならない。また、その民をのろってもいけない。その民は祝福されているのだから。」

22:13 朝になると、バラムは起きてバラクの長老たちに言った。「あなたがたの国に帰りなさい。【主】は私があなたがたと一緒に行くことをお許しにならないから。」

22:14 モアブの長老たちは立ててバラクのところに帰り、そして言った。「バラムは私たちと一緒に来ることを拒みました。」

バラムは異邦の占い師であって、聖書の預言者とは違います。しかし、迫害者であったサウロに主が語りかけたように、このバラムにも主は語られたのです。誰かの救いを願うとき、チャンスが全くないからとあきらめることなく、主が直接語られることさえも期待できますから、あきらめないうで主の奇跡を祈りましょう。

バラムは主に対して正しい神観を持っていたわけではありませんでしたが、それでも真理を求めていたので、正しいことを語ることができました。

未信者の語ることに、主の真理が含まれることがありますから、それを伝道のきっかけにすることができるのではないのでしょうか。良いチャンスがないかどうか考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 13日 火曜

民数



22:15 バラムはもう一度、先の者たちよりも大勢の、しかも位の高い長たちを遣わした。
22:16 彼らはバラムのところに来て彼に言った。「ツィポルの子バラムはこう申しました。『どうか私のところに来るのを断らないでください。』」
22:17 私はあなたを手厚くもてなします。また、あなたが私に言いつけられることは何でもします。どうか来て、私のためにこの民に呪いをかけてください。』」
22:18 しかし、バラムはバラクの家臣たちに答えた。「たとえバラクが銀や金で満ちた彼の家をくれても、私は私の神、【主】の命を破ることは、事の大小にかかわらず、断じてできません。
22:19 ですから、あなたがたもまた、今晚ここにとどまりなさい。【主】が私に何かほかのことをお告げくださるかどうか、確かめましょう。』」
22:20 夜、神はバラムのところに来て、彼に言われた。「この者たちがあなたを招きに来たのなら、立って彼らと一緒に行け。だが、あなたはただ、わたしがあなたに告げることだけを行え。』」
22:21 バラムは朝起きて、自分のろばに鞍をつけ、モアブの長たちと一緒にいった。
22:22 しかし、彼が行こうとすると、神の怒りが燃え上がり、【主】の使いが彼に敵対して道に立ちはだかった。バラムはろばに乗っていて、二人の若者がそばにいた。
22:23 ろばは、【主】の使いが抜き身の剣を手に持って、道に立ちはだかっているのを見た。ろばは道からそれて畑に入って行ったの

で、バラムはろばを打って道に戻そうとした。

22:24 すると【主】の使いは、両側に石垣のある、ぶどう畑の間の狭い道に立った。

22:25 ろばは【主】の使いを見て、石垣にからだを押しつけ、バラムの足を石垣に押しつけたので、バラムはさらにろばを打った。

22:26 【主】の使いはさらに進んで行って、狭くて、右にも左にもよける余地のない場所に立った。

22:27 ろばは【主】の使いを見て、バラムを乗せたまま、うずくまってしまった。バラムは怒りを燃やし、杖でろばを打った。

22:28 すると、【主】がろばの口を開かれたので、ろばはバラムに言った。「私があるに何をしたというのですか。私を三度も打つとは。』」

22:29 バラムはろばに言った。「おまえが私をばかにしたからだ。もし私の手に剣があれば、今、おまえを殺してしまうところだ。』」

22:30 ろばはバラムに言った。「私は、あなたが今日この日までずっと乗ってこられた、あなたのろばではありませんか。私がかつて、あなたにこのようなことをしたことがあったでしょうか。』バラムは答えた。「いや、なかった。』」

「金銀」には目もくれずに一度は断ったバラムでしたが、「何かほかのこと…」がないかどうかと、バラク王からの使いを留めさせてしまいました。結局金銀を捨てきれなかったのです。

神様は「彼らとともに行け」と言われましたが、それはご自身の怒りをバラムに表わすためでした。主はロバが話すようにして、バラムに語りかけてそれが主であることを明かにしつつ、バラムの欲

に目がくらんだ心を指摘なされたのです。信仰によって歩もうとするなら、金銀などの利害に未練を残してはなりません。主が与え主が取られるからです。主の御心をまっすぐに行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 水曜

民数



22:31 そのとき、【主】はバラムの目の覆いを除かれた。すると彼は、【主】の使いが道に立ちただかり、抜き身の剣を手を持っているのを見た。彼はひざまずき、伏し拝んだ。

22:32 【主】の使いは彼に言った。「何のために、あなたは自分のろばを三度も打ったのか。わたしが敵対者として出て来ていたのだ。あなたがわたしの道を踏み外していたからだ。」

22:33 ろばはわたしを見て、三度もわたしから身を避けた。もし、ろばがわたしから身を避けていなかったなら、わたしは今すでに、あなたを殺して、ろばを生かしていたことだろう。」

22:34 バラムは【主】の使いに言った。「私は罪を犯していました。あなたが私をとどめようと道に立ちただかっておられたのを、私は知りませんでした。今、もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」

22:35 【主】の使いはバラムに言った。「その人たちと一緒に行け。しかし、わたしがあなたに告げることばだけを告げよ。」そこでバラムはバラクの長たちと一緒にいった。

22:36 バラクはバラムが来たことを聞いて、彼を迎えに、国境の端にあるアルノンの国境のイル・モアブまで出て来た。

22:37 バラクはバラムに言った。「私はあなたを迎えようと、人を遣わさなかったでしょうか。なぜ、私のところに来てくださらなかったのですか。私には、あなたをおもてなしすることが、本当にできないのでしょうか。」

22:38 バラムはバラクに言った。「ご覧なさい。私は今あなたのところに来ているではあ

りませんか。私に何が言えるでしょう。神が私の口に置かれることは、それを私は告げなければなりません。」

22:39 バラムはバラクと一緒にいき、キルヤテ・フツオテに着いた。

22:40 バラクは牛と羊をいけにえとして献げ、それをバラムおよび彼とともにいた長たちにも贈った。

22:41 朝になると、バラクはバラムを連れ出し、彼をバモテ・パアルに上らせた。バラムはそこからイスラエルの民の一部を見た。

第二ペテロを見ると、バラムがバラクからの贈り物に目がくらんで、神の意に反したのだとわかります。ろばが恐れて引き返そうとしたことで、彼は助かったのですから、バラクのところに行くのをやめるべきでした。しかし「もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」と、分りきったことを再度訪ねているのです。彼は何も聞かずに引き返すべきだったのです。

私たちも、主の御心に反していると分っているが、主からの示しがあればやめます…などと言いつつ続けていることはないでしょうか。主は従う気がないことを御存知です。

モアブの王バラクの目的は分っていました。すなわちイスラエルを呪うことです。しかし、バラムは呪いの占い師として、そこに行ってしまう。もしも神からのお告げがバラク王の気に入れば、相当の財が手に入るだろうとの期待があったからです。

しかし結局神はイスラエルを呪うことを許しませんでした。悪霊がイエス様を神の子と認めて恐れられたように、また悪霊がパウロ一行を神の預言者と認めたように、占い師バラムも神の力を認めざるを得なかったということでしょう。

バラムのように表面的・部分的には神に従っているように見えても、その動機が問題です。主に従順であるかどうか…。自分も含めてよく吟味して、その人に働いている霊を見分けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 木曜

民数



23:1 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、七頭の雄牛と七匹の雄羊をここに用意してください。」

23:2 バラクはバラムの言ったとおりにした。そしてバラクとバラムは、祭壇の上で雄牛一頭と雄羊一匹を献げた。

23:3 バラムはバラクに言った。「あなたは、あなたの全焼のささげ物のそばに立っててください。私は行って来ます。おそらく、【主】は私に会ってくださるでしょう。主が私にお示しになることを、あなたに知らせましょう。」そして彼は裸の丘に行った。

23:4 神がバラムに会われたので、バラムは神に言った。「私は七つの祭壇を整え、それぞれの祭壇の上で雄牛一頭と雄羊一匹を献げました。」

23:5 【主】はバラムの口にことばを置き、そして言われた。「バラクのところに帰って、こう告げなければならぬ。」

23:6 彼がバラクのところに帰ると、見よ、バラクはモアブのすべての長たちと一緒に、自分の全焼のささげ物のそばに立っていた。

23:7 バラムは彼の詩のことばを口にして言った。「バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から私を連れて来た。『来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルを責めよ』と。

23:8 私はどうして呪いをかけられるだろうか。神が呪いをかけない者に。私はどうして責めることができるだろうか。【主】が責めない者を。

23:9 岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ、この民はひとり

離れて住み、自分を国々と同じだと見なさない。

23:10 だれがヤコブのちりを数え、イスラエルの四分の一さえ数えられるだろうか。私が心の直ぐな人たちの死を遂げますように。私の最期が彼らと同じようになりますように。」

23:11 バラクはバラムに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私の敵に呪いをかけてもらうためにあなたを連れて来たのに、今、あなたはただ祝福しただけです。」

23:12 バラムは答えた。「【主】が私の口に置かれること、それを忠実に語ってはいけません。」

バラムは占い師でしたから、彼なりの占いの方法があったのでしょう。その結果はイスラエルを祝福するものしか出てきませんでした。現代でも占い師や異端や偶像などで、キリストを肯定するようなことを言う人がいるかも知れませんが、それは神として認めて従っているのとは違います。

悪霊でもそれなりの力がありますから、不思議なことでも人々を驚かすことくらいはできます。しかしその結果は神様に反することであり、人々を自分と同じように滅びに引きずり込む目的です。

惑わされないようにしましょう。また自分自身のあり方も、紛らわしいものではないかと吟味する必要があります。本当に主に従順なのか、それとも自分の方法や目的に合致しているから、たまたま御心に沿っているのか、考えてみましょう。もしも自分の都合や目的に沿わないような、主の御心が示された場合は、そのことが明らかになります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16日 金曜

民数



23:13 バラクは彼に言った。「では、私と一緒に彼らを見ることができる別の場所へ行ってください。その一部を見るだけで、全体を見ることはできませんが、そこから私のために彼らに呪いをかけてください。」

23:14 バラクはバラムを、セデ・ツォフィムのピスガの頂に連れて行き、そこで七つの祭壇を築き、どの祭壇にも雄牛一頭と雄羊一匹を献げた。

23:15 バラムはバラクに言った。「あなたはここで、自分の全焼のささげ物のそばに立っててください。私はあちらで主にお会いします。」

23:16 【主】はバラムに会い、その口にことばを置き、そして言われた。「バラクのところに帰って、こう告げなければならない。」

23:17 それで、彼はバラクのところに帰った。すると、彼はモアブの長たちと一緒に、自分の全焼のささげ物のそばに立っていた。バラクは言った。「【主】は何をお告げになりましたか。」

23:18 バラムは彼の詩のことばを口にして言った。「立て、バラクよ。そして聞け。私に耳を傾けよ。ツィポルの子よ。」

23:19 神は人ではないから、偽りを言うことがない。人の子ではないから、悔いることがない。神が仰せられたら、実行されないだろうか。語られたら、成し遂げられないだろうか。

23:20 見よ、私は、祝福せよとの命を受けた。神が祝福されたのだ。私はそれをくつがえすことはできない。

23:21 ヤコブの中に不法は見出されず、イス

ラエルの中に邪悪さは見られない。彼らの神、【主】は彼らとともにおられ、王をたたえる声が彼らの中にある。

23:22 彼らをエジプトから導き出された神は、彼らにとって野牛の角のようだ。

23:23 まことに、ヤコブのうちにまじないはなく、イスラエルのうちに占いはない。神が何をなされるかは、時に応じてヤコブに、すなわちイスラエルに告げられる。

23:24 見よ、一つの民を。それは雌獅子のように起き上がり、雄獅子のように身を持ち上げ、休むことはない。獲物を食らい、殺されたものの血を飲むまでは。」

23:25 バラクはバラムに言った。「彼らに呪いをかけることも祝福することも、決してしないでください。」

23:26 バラムはバラクに答えた。「私は、【主】が告げられることはみな、しなければならぬ、とあなたに言ったではありませんか。」

23:27 バラクはバラムに言った。「では、私はあなたを、もう一つ別の場所へ連れて行きましょう。もしかしたら、それが神の御目にかかって、あなたは私のために、そこから彼らに呪いをかけることができるかもしれませぬ。」

23:28 バラクはバラムを、荒れ野を見下ろすペオルの頂上に連れて行った。

23:29 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、七頭の雄牛と七匹の雄羊をここに用意してください。」

23:30 バラクはバラムが言ったとおりにして、祭壇に雄牛と雄羊を献げた。

ると思っていました。御心が示されているのに、なかなか従えない人の姿も同じようなものです。

またバラムは早くこの呪いの占いから身を引くべきでしたが、やめようとしませんでした。彼は真理を語っていたのに、行動が伴わなかったのです。なかなか救いに至らない人の例がここにあります。一方私たちも、バラムのように間違いから抜け出さないでいることはないでしょうか。

バラムは一見、神のことばを忠実に伝えている信仰者のようですが、実際の目的は自分のためであり、王バラクのために続けていたのです。自己中心の不信仰が、信仰的に見える行動の中に隠れてはいないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

王バラクは場所を変えれば、占いの結果が変わ



17日 土曜

民数



24:1 バラムはイスラエルを祝福することが【主】の目にかなうのを見て、これまでのようにまじないを求めに行くことをせず、その顔を荒野に向けた。

24:2 バラムが目を上げると、イスラエルがその部族ごとに宿っているのが見えた。すると、神の霊が彼の上に臨んだ。

24:3 彼は、彼の詩のことばを口にして言った。「ベオルの子バラムの告げたことば。目の開かれた者の告げたことば。

24:4 神の御告げを聞く者、全能者の幻を見る者、ひれ伏し、目の開かれた者の告げたことば。

24:5 なんとすばらしいことよ。ヤコブよ、あなたの天幕は。イスラエルよ、あなたの住まいは。

24:6 それは、広がる谷のよう、また川のほとりの園のようだ。【主】が植えたアロエのよう、また水辺の杉の木のように。

24:7 その手桶からは水があふれ、種は豊かな水に潤う。王はアガグよりも高くなり、王国は高く上げられる。

24:8 彼をエジプトから導き出された神は、彼にとっては野牛の角のようだ。彼は自分の敵の国々を食い尽くし、彼らの骨をかみ砕き、矢をもって撃ち砕く。

24:9 雄獅子のように、また雌獅子のように、彼は身を伏せ、横たわる。だれがこれを起こせらるう。あなたを祝福する者は祝福され、あなたをのろう者はのろわれる。」

異邦、異教の占い師であるバラムにでさえ、主は働いて、御心を示されました。当然彼はその内容を否定しなかったのですが、否定できなかったのです。

ここに全世界を権威を持って治める主の主権があります。

現代の世でも同じ主が働いておられます。たとえクリスチャンが少数派であったとしても、主はそのご計画を成し遂げて下さる方です。怯むことなく主の力に頼りましょう。主の御心を成し遂げましょう。この世にあって、主の御心を行うチャレンジをしてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24:10 バラクはバラムに対して怒りを燃やし、手を打ち鳴らした。バラクはバラムに言った。「私の敵に呪いをかけてもらうためにおまえを招いたのに、かえっておまえは三度までも彼らを祝福した。

24:11 今、おまえは自分のところに引き下がれ。私は手厚くもてなすつもりでいたが、【主】がもう、そのもてなしを拒まれたのだ。」

24:12 バラムはバラクに言った。「私は、あなたが遣わした使者たちにも、こう言ったではありませんか。

24:13 『たとえバラクが私に銀や金で満ちた彼の家をくれても、【主】のことは背くことは、良いことでも悪いことでも、私の心のままにすることはできません。【主】が告げられること、それを私は告げなければなりません。』

24:14 今、私は自分の民のところに帰ります。さあ、私は、この民が終わりの日にあなたの民に行おうとしていることについて、あなたに助言を与えます。」

24:15 そして彼の詩のことは口にして言った。「ベオルの子バラムの告げたことは、目の開かれた者の告げたことば。

24:16 神の御告げを聞く者、いと高き方の知識を知る者、全能者の幻を見る者、ひれ伏し、目の開かれた者の告げたことば。

24:17 私には彼が見える。しかし今のことではない。私は彼を見つめる。しかし近くのことではない。ヤコブから一つの星が進み出る。イスラエルから一本の杖が起り、モアブのこめかみを、すべてのセツの子らの脳天を打

ち砕く。

24:18 その敵、エドムは所有地となり、セイルも所有地となる。イスラエルは力ある働きをする。

24:19 ヤコブから出る者が治め、残った者たちを町から絶やす。」

24:20 彼はアマレクを見渡して、彼の詩のことは口にして言った。「アマレクは国々の中で最高のもの。しかし、その終わりは滅びに至る。」

24:21 彼はケニ人を見渡して、彼の詩のことは口にして言った。「あなたの住みかは堅固で、あなたの巢は岩間に置かれている。

24:22 しかし、カインは滅ぼし尽くされ、ついにはアッシュルがあなたを捕虜とする。」

24:23 また彼は、彼の詩のことは口にして言った。「ああ、神が定められたなら、だれが生き延びられるだろう。

24:24 船がキティムの岸から来て、アッシュルを苦しめ、エベルを苦しめる。これもまた、滅びに至る。」

24:25 バラムは立って自分のところへ帰って行った。バラクも帰途についた。

結局は、その民であるイスラエルを守り、そして呪われることを許しませんでした。異邦の占い師でさえも、また王でさえも、主の主権の前には呪うことすらできなかったのです。

当時イスラエルは荒野を生きる民であり、荒野において他の民族の攻撃にさらされなければならない状況でした。その中で主のご計画が進む必要があったのですが、主は見事に彼らのを守ってくださったのです。

同じように現代の荒野を進む私たちもまた、異邦の地に進むものであり、異教の脅しにも直面す

ることがあるものです。しかし主は同じように私たちを守ってくださるのです。

感謝しましょう。そして主にしんらいしましょう。さらに前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

